

表紙, 目次, 雑報, 通信

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38191

明治四十四年九月三十日第三種郵便物認可(每月一回一日發行)

大正三年七月一日發行

十全會雜誌

卷九十第
號七第
(號二百第)

全澤醫面學專門學校十全會

十全會雜誌

第十九卷第七號
(第百二號)

目次

○原著及實驗

●臺灣臺北ニ於ケル梅毒蔓延狀況ニ就テ。

臺北醫院皮膚科

池 上 豊

○雜 報

●第拾四回十全會講話部大會。

●明全會々報。

●第二學年級會誌。

○通 信

●宮田教授通信。

○學 會

●今立西部研究會。●長野縣醫學會。

○叙任及辭令

●海軍省。●金澤醫學專門學校。●石川縣。

○人 事

●天野彦次氏。●丸山直友氏。●山岸缶氏。●小西眞清氏。●越村甚次郎。●轉居。●入會。

○會 告

●校外特別會員會費納付調書。●創立二十五年紀念館寄付金第二回報告。

○廣 告

●居所不明會員。●宮田教授へ贈呈紀念品釀金受領報告。

八、人口トノ割合ハ明治四十一年以後ヨリ著シク増加シ近年ニテハ〇、六%強ニ相當ス

九、一般患者ニ比シテハ全シク明治四十一年以後ニ増加シ二、五%ニ相當ス

一〇、内地人ニテハ人口並ニ一般患者ニ對スル黴毒患者ノ%ハ其ノ差異少ナレバ臺灣人ニテハ甚シキ相違アリ

一一、内地人ハ黴毒症狀輕ク醫治ヲ受ケザルモノ少ナキニ反シ臺灣人ハ其ノ症狀強ク且ツ潛レタル患者甚ク多數ナリ

〔附〕余輩ノ希望

世界各國何レニ於テモ文明ノ進歩ニ隨ヒ黴毒ハ益々其ノ蔓延ヲ呈シツ、アリ吾ガ臺北ニテモ年々増加シツ、アルハ事實ナリ

現今ノ趨勢ニテハ到底充分ナル豫防法ノ下ニ其ノ撲滅ヲ計ルハ困難ニシテ只各自ガ其ノ人格ヲ高メ危險ナル憎ムベキ此ノ疾病ニ罹ラザル様即チ其ノ源泉タル賣笑婦ニ近ラザルヨリ外ニ途ハナシ

國家ハ公衆衛生トシテ國民ノ健康ヲ擁護センガ爲メ公娼ノ檢査制度ヲ設ケラレアルモ是レノミニテハ其ノ目的ヲ達スル事ハ絶對ニ不可能ニシテ且ツ奏効ヲ認ムルハ難事タリ

各國ノ學者ハ此ノ豫防ニ就キ非常ナル腦力ヲ費シテ其ノ方法ヲ講シツ、アリ結果昨年八月ロントンニ開カレタル萬國醫學大會ニ於テモ皮膚科黴毒科

法醫學科連合分科ハ左記ノ三條ノ決議ヲナシ各國政府ニ迫ラン事ヲ計リタリ即チ

一、黴毒ガ社會ヲ蹂躪シ健康ヲ損害スルノミナラズ益々播布ヲ逞フセン

トス、本會ニ列スル各國代表者ハ各政府ニ注意ヲ促ス事

二、黴毒ニ關スル通信機關ヲ各國政府衛生局ニ設致スル事

三、黴毒ノ診斷及ビ治療法ニ向フテ秩序的法则ヲ遵守セザレバコレガ豫防ヲ成就シ難キ事

吾國衛生當局者ニオカレテモ其ノ意ヲ了トセラレ比較的完全ニ近キ豫防法ヲ講セラレ年々増加シツ、アル此ノ危險ナル怖ルベキ黴毒ノ撲滅ヲ計ラレン事ヲ切ニ希望ス。

雜報

●第拾四回十全會講話部大會 (五月十六日)

社會の大勢我校の意氣吾人の理想は奈邊に在りや斯かる鼎の輕重を問ふは蓋し講話會を措きて他に求む可からず時是在に春芳漸く歇んで夏綠初めて齊しき五月十六日午前八時を期し本校大講堂に於て第十四回大會を開催す當日の概況一束左記の如し。

土肥部長

一、開會の辭

日常の抱負嶄新の研究は等しく會員の希望する所なり然れば且講じ且聽き以て新知を啓發し徳器を成就し日新の大勢に後れざらしめんには出演辯士諸君に俟つ所大なりと雖尙ほ一面會員諸氏の清聽を煩はさざる可からず即阿々相待ちて初て講話會の眞意是にあらん乞ふ自重自愛せよ。

二、囑に就て

中西與三郎君

噓の語源を尋れて和漢英獨に渡り尙惡意的或は好意的意義に分類す復た生理學的説明を興へ併せて其の利害を問ふ要するに噓は利我害他のもの也。

三、スクロヒ主

坂東 三 範君

自分の論旨は「イエスキリスト」をスクロヒ主と呼び大聖釋迦をスクロヒ主と敬ふと共に醫者をスクロヒ主と言ふ他なし宗教家は精神界を支配し醫家は肉体を管理す由來心身相關は明なる事實也。

四、精神修養

河村 長 治君

冒頭第一人間の精神は植物の根の如しと喩へ延て古語の *Mens Sana Corpore Sano* を改良して *gesunde Körper in gesunder Seel* としくしと氣焔を吐かる。

五、自由と束縛

中村剛太郎君

自由の範圍に活動するものは一朝苦き束縛は到底永續す可くもあらず却て反發を招くと史實を擧げて立證す要は社會萬般の嚴格なる方規の徹底せられて自由の生活を欲す吾人は敢て言ふ博士の學位は邪間にならざるに等しく法令の中に自由を享く是れ其間五十歩百歩耳。

六、科學より人生へ

石原 巖君

人生の最大恐怖は何？老病死の三つである古來幾多の宗教哲學を以て例証すれども未だ全きを得ず吾爾は科學より人生へ進まざる可からずと斷定す而も醫學は人生に肉迫する最も適當なる科學なり諸君科學より人生へ醫學より人生へ。

七、學

狩野 藤 作君

世中には面白い事が澤山ある大學教授の眞似する大學生あり人の眞似する猿ありと笑はせた學の種類を區別し土金材木の三つを用ひて大厦高樓を建てる大工は材料の取捨按排其宜しきを以てなりそれ學は活用して初めて眞價あり。

八、奢侈論

川 島 俊 氏

定義何人も恰も自覺的に知る抑々之れ相對的の名稱なり而て心理狀態を解剖せられて浮誇心肉慾心裝飾心の三つとす徐に奢侈は肉体的精神的大害ありと論じ世に往々誤解して商工業の隆盛を見るをなす然し乍ら若し有益なる事業の勃興に基き奢侈品製造者は其職を失ひ延て一般經濟狀態を擾亂するに至る可しと觀破せらる吾人は時間短に過ぎ同氏の論旨徹するに至らざりしを謝す所のものなり。

九、政事と教育

望 月 鐘 一 君

君は藥學科に於ける英才特に政事を以て生命とせらるゝは君が先天的素因ありと謂ふ可し現今の教育上改良す可き諸点を指呼し尙ほ及して醫者を分ちて「病人を治す醫者」「醫者を治す醫者」「國家を治する醫者」となし諸君は其何を推す哉と結ぶ。

十、醫學の進歩と天壽との關係

布瀬 七 一 郎君

醫學の進歩は奈邊に迄達するや醫學者の常に理想とする處は疾病の完全なる治療と其の豫防に存す可しとせんも以て人類生存期間即ち壽命の無限の延長は夢想だにある所なく唯だ平均的壽命の延長にあり。

十一、細胞の生理的變性に就て

佐 口 助 教授

篤學の聞高く未定期空しく研究室裡に於ける最近の業績は何ぞ曰演題は既に天下具眼識者をして首肯せしめん細胞の變性に生理的病理的の別をなす而て其變性死滅は細胞を構成する胞核の能動的作用に基き是に次で胞体の受動的變化を起すものにして通常胞核の構成上重要な意味あるは *Basichromatin*、*n* *Oxychromatin* の兩者を推す爾來病理學者は分核象現を分ちて參種となす曰 *Karyolysis*、*n* *Plonose*、*n* *Karyolyse* 即是也然も動物學者解剖家皆其の餘流をくみて細胞の變生は等しく病的なりと阿附するは以て奇とする所也予は「ハイデンハイン」の説に一步を進め胎生時に於ける某臟器死滅を研究して是現象の秩序整然亂れる定型を分ちて四となす即 *Mitose*、*Amitose*、*n* *Nucleotite*、*n* *Hypertrophie* となり最後に核膜を破

壞して細胞体内に流出するを認む。加之特種染色法によれば胞核中隨處散在する核小体に同一顆粒を發見し細胞變性に陥らんとするや兩者俱に共に形態的(個形狀)及無形的(液体狀)物質の激増を呈し遂に核胞を破りて溢るる狀歴然たり然る後核小体は核膜に附着して内容に種々の形象を作して盡く排出せられ或は時而核小体自己の分裂を來し其の一半を遺し胞核は全く収縮するに至る、世上未だ核小体の何者なる哉を詳せず予は分核作用に興り特殊の關係あるは想像に餘りある所のもの也とす

先生の講演中より新智を啓發すると共に醫學の前途研究無限を説き益々帝國の爲め努力を要すと指導し給ひしは吾人後輩の深く感謝する所なり。

十二、醫事雜感

近藤 清 吾氏

臨床的所觀として現代の醫學は尙ほ未原因療法の完全なる事能はず空しく對症的療法に甘ぜざる可らず然れ共兩者補翼の必要あるは下痢症蛋白質尿性網膜炎腎臟病動脈硬變症等擧げて數ふ可らず尙ほ精神的治療は決して閉却する能はず診斷の適否は治療に直接關係あるものなれば患者の主訴を綜合分析して初めて妙味あり終に臨み患者對醫師患者周圍對醫業者醫業者對醫業者は吾人の最も留意す可き所のもの也。

午後之部

十三、偶感一則

醫四 三 桶米 造君

我等は出來得る限り文明を消化し文明を利用するの男子たらざるべからず故に惡しきを捨て、良きを取る原則には従はざるべからず今や我等各學級百餘名の人數を有し各級又それく七八乃至九の學科を筆記しつゝあるは既に古し之を考ふるに筆記制度なるものは今より二十餘年前一級の生徒僅に三十名内外なりし時代最便利なる方法として用ゐしもの、遺物のみ現時既に一級百餘名となり勉學すべき事項の膨大昔日の比にあらず而して尙年と共に増加せんとする折一々之を筆記して勉強せんとする如きは決して取るべきの利法にあらず今各級に於て十二三名宛の組合を形成し其各組十二

三名の者共方して一學科に對して暑中休暇の初に於て約十日を利用し先學年生徒のノートを基礎とし當該學科教授の指導の下に之を改善し或は騰寫版よし或は蒟蒻版よし百有餘冊のノートを作るは極めて易々たる事なるべし而して各組責任を以て其を遂行する事とせば我等は茲に現在の如き煩雜なる勉強法は除かれて學校の授業の時間は盡く化して眞の勉學の時間となすを得べし而して之を行ふの困難は唯單に最初一二年間のみ其後は或は活版となし年々少々の訂正を經ばよき事ならむ斯くして吾等の學生生活に餘裕の時間を生ぜば即ち其時間を以て或は圖書館に勉學し或は實地醫學を研究し或は體力の増進に利用すべしかくして進まば我等は眞に勇往邁進我等の目的に一直線なるを得ん十全會各部の不振の聲は先輩既に口にす事久しく諸先生より話題に上せらるゝ事數多く我等も亦之を自覺し居れり又各學校との競技に於て常に劣敗を重ねつゝある其因て來る所は我等は時間に於て餘裕なきによるなり噫此現情我等は座して何時までも現情に甘んずべきか諸君若し過らざるの論旨と認めなば奮然立つて以て現在の因習を除け。

十四、醫育機關と十全會圖書室

村山 良 平君

今や帝國に於ける醫育機關は三醫科大學十七醫學專門學校を以て之に當つ而我十全會圖書室の藏書數は全國の最少限を表し閱覽者數は其の最高位を始む是に依て之を見れば豈復多少の感慨なきを得ん哉。

十五、サルバルサンと眼梅毒

辻本 辰之助氏

サルバルサンの梅毒に對する泰西諸家の所見を歴述し及ぼして眼科に入り全氏業積と「シユウエト」「スタインホルツ」等の成績を對証せられ最後に中毒の作用を説く吾人は乞ふ所あり遠からず我が誌上を裝るに至らん。

十六、醫業者の前途

山田 謙 治氏

『醫は仁術なり』の慣用語は我が神聖なる醫學の進歩を阻害するの甚しきものなりと論じ濟生會治療病院は却て中流者の恩澤に浴せざる予盾を指摘し

給ふ其他赤十字社病院郡縣公立病院が聖代の今日尙存續し却て私立病院開業競争と競争の狀態なるは非道の乗々なりき慷慨せられ醫師と辯護士とに於ける彼は財産保護の名目に隠れて数千金を請ふことも怪しみます我は生命救済の時僅數百金を得んとするも世は擧げて不仁を責む醫業者は宜しく一致團結して以て吾人の前途に着眼す可し。

十七、石川縣醫學沿革史

飯森益太郎氏

安政元年壯猶館の設立以來、種痘所、養生所、醫學館、石川縣石川病院、金澤醫學所、金澤醫學學校、石川縣甲種醫學學校、第四高等中學校醫學部、第四高等學校醫學部より現在の金澤醫學專門學校に至る沿革を詳述せられ尙且醫學に貢獻著大なる黒川靜淵、津田停三、太田美濃里諸氏の肖像或は記念品を陳列せらるる詳細は誌上に掲載せらるる、等。

追加

米村氏登壇慶應三年寫眞術を病院内に設けらるる醫學と密切の關係あるを以て天下具眼之士既に然り尙高峰氏の家雜を育て、民利の啓發ありき。

金子教授は直に踵を切し温姿を現し開口、前辛阿氏の斯學研究の勞を慰む尙ほ飯森君の講演中讚辭多く當時の特等は今日の禿頭と自ら頭を打ちて破顔一笑滿堂の聽集拍手喝采す。

十八、吾人の希望

米村吉太郎氏

人誰か希望を有せざる者なからん而し其希望は人の地位人格等により種々の希望を有するものなり故に吾人の如く地位低く且天性不敏不善の人格の者に於ては元より賢明なる諸君の御參考に供する如き言辭を吐露する事能はざるは勿論なれども唯々一席の座談として御靜聽あらん事を乞ふ
抑も希望は本人の意思發端の指南針にして且其目的物を収容する容器なり故に其内容はにして善良なる器質を撰擇す可きを要す余嘗て或る小冊誌を散見したるに獨乙人の訓誡十則中第一に曰く如何なる支拂を爲すに當りても常に自國人の利益てう事を念頭に置き可し然り凡そ國なる團結の基

に生存せる者は何人ぞ雖も此の心無かる可からず故に吾人の希望は必ず自國人に利益なる事を包含せざる可からず

抑も我國は諸君の知らるる如く領域狹く人口多く生存競争甚だしく殊に我が同業醫師も年々増數の結果競争の激烈を免るゝ事能はざるは自然の理なり茲に其一二例を擧ぐれば明治三十六年木下博士ガ―セ事件の醫藥律法規に問はれたる以來醫師の法廷に現はるゝ事件多々なるも權利上の争は比較的老醫師に多く傳染病隱蔽等の件は其他醫師法第七條に觸るゝ事即ち虛欺の廣告の條文に觸れて告發せられ或は實費診療院の關係に座して地方醫師會に波瀾を來し或は古來より行はれたる醫師間の互讓の美風も破壊せられ地方醫師間の圓滿を擾亂せらるる例へば多く壯年醫師が問題の中心たる事なきにあらず

以上の數例は新たに開業する壯年醫師の生活困難を示す者ならんぞ信ず余は茲に於て數年來の希望あり昨年五月頃本校教授會へ自分の希望を認めたる意見書を提出したる事あり其後御採否如何なるや今に其消息に接せず其趣意は我國の醫師は年々増加し内地開業の餘地に乏し之に反して海外殊に南洋地方は殖民地或は移民地多く此の所に我醫師を移住せしむるは一つは國家的政策として必要なる事業にして又移民及土民をして我が醫學の恩惠に浴せしむる所謂醫師の仁術なりと信ず

以上の事業は内地醫師の風紀を善良ならしめ且國勢發展策として必要欠く可からざる良法なり彼の同仁會の如きは主として支那朝鮮地方に此の方法を執行せらるゝも南洋地方に未だ着手せざるやに聽く故に本十全會は卒先此の事業を企圖せられん事は吾人の希望なり然れども斯の如き事業は容易の業にあらず故に先づ本校出身者にして南洋地方に移住活動せらるゝ諸君に調査方四月の本會誌には岡部忠清君の通信ありを托し之によりて大體の方針確定したる曉には本會は發起者となり本校出身者の寄附金を勧誘し本校出身者にして身体強健自信力堅固なる人を撰拔して多少の補助政策を

取り年々三名―五名を移住せしめ同地住民の健康を保護し且我國今日の文明は多く醫師の誘掖に起因するが如く彼の蠻地をして文明の恩恵に浴せしめ幾十年の後歐米各國に比肩せしむるも亦快事ならずや

尙一層進みては彼地先輩の調査を待たず身神堅固なる壯年醫師を撰抜して彼の地に送り實地調査せしめ年々經費の許す限度に於て後續隊を派遣し南洋の遺利を獲得し第二の日本國を形成せしむるは最も必要の件なりと信ず然るに荏苒歲月を経過すれば所謂人に先ずる者人を制するの好機を逸するは現の當然なり乞ふ片時も早く此の舉に着手せられん事を

資金募集方法

以上の如き事業は組織者の種類によりて事業費の募集方法を異にする事と信ず若し醫師會の如きに於ては會社組織にして株金を募集する方法は應募額多く隨て事業も活潑に發揮する便宜あるも本會の如く單に情宜上の會合を有する組織に於ては其の集金小額にして事業遲延するも寄附金資金を以て決行する方可然ならんを信ず

資金収入高一ヶ年見積り豫算(五ヶ年計畫)

本校卒業生にして未だ卒業後日淺く寄附の餘剰なき人等を除き先づ相當の地位に在る者を一千人と見積り平均一ヶ年三圓宛寄附すれば三千圓なりとす

支出方法

一人の補助金高一ヶ年七百圓毎年四人を派遣せし(尙事業の狀況に依ては繼續補助するところあるべし)め殘金二百圓は事務費とす

被補助人は目的地へ送り三ヶ年後は毎年百圓以上本會へ納金する事

以上の規約は極く單簡なるも本會の事業にして本會々員の内より撰抜するを以て嚴重の規約を要せず又補助金も少額にして一ヶ年の事故何事も充分の活動不能の嫌あるも本趣旨は補助の意味なるを以て本人の身神の堅固と資力を要する事勿論なり

以上は極く杜撰の嫌あるも自分に於て實地調査したる事なきを以て具體的の案を立つる事能はず然れども恐らくは大体に於ては目的の一部分を遂行する事を得し又本會の主宰者たる各教授にして充分御助力あれば一ヶ年三四千圓の寄附金の募集する事は難事に非ずと信ず當地の我が友人に於ても一ヶ年二三百圓を寄附する人不少と信ず小生の如き貧乏人に於ても斯の如き有望の事業を尊敬する各教授に於て御助力あれば五ヶ年間に貳百圓位の寄附に辭せざる考なり何卒本會の主腦者たる各教授及特別會員の御奮勵あらん事を乞ふ。

十九、所 感

高 安 校 長

先日校長會議の概括的講演あり曰く新入生募集曰く入學試験科目曰く無試験採用を認めず曰く學年期變更の件等にして最後に在校生の鶴首せし卒業試問の存廢の一事は重大なるものにして輕々決議す可くもあらず宿題となる語を轉して本校の現況は氣風清誠にして向上的團結の多く最も喜ばしきものなりと

本日先生の講演を辱し就中忙中閑を裂き病を犯して臨場を得たるは吾部の深く謝す所也。

二十、過敏症の説明

福 岡 講 師

二十一、獨乙に於ける血闘實見談

福 士 教 授

歐洲列強が帝國に對する視注は蓋し吾人の意表外なりと政事的方面より入り特に武士道を以てその優とす曾て日英博覽會歸朝の日本人の一團体は伯林の「ルーナパーク」に於ける興業或は「ガツフエーミカド」の内情等は帝國の威信に關するものなりと痛論せらる愈々「ホクセライ」「メンズール」の實見談に入り其の意義、服裝、方法利益を詳説し遂に法規を以て嚴禁する血闘か尙ほ英主「カイセル」の默認する所以は蓋し其精神的方面に及ぼす効果の顯著なればなりと。

二十二、閉會の辭

土 肥 部 長

閣下及び諸君の御臨場を辱し幾多名士の御講演を拜したるは我部の光榮とする所にして是に一同に代て深謝す尙ほ諸氏の演題多々あれども惜哉夕陽西に没するを如何せん乞ふ幸に諒せよ。
〔委員村山生〕

●明全會々報

花謝し杜鵑血になく候我が明全會は金澤病院會議室を以て第貳拾六回例會を開く親愛なる會員諸君は本年度棉尾の雄辯を振ひ交歡愈出で、愈盡きず斜日西に没し黄昏迫るに及び互に別れを惜みて去る。
當日の講演及び氏名如左。

壹、開會之辭

高橋隆三

貳、入會之辭

田中清次

參、風土の響影と金澤市

村山良平

地勢上歐洲は獨立國多く支那は統一せられ易し日本の平原國と山國とは其の住民に及ぶ影響する所自ら別あり由來北陸の地降雪最多く從て貯蓄心に富む是金澤市が活動的を缺き商工業の發展を沮害せらるゝ所以に非ざる哉然れ共修養の地として最高冠を與へんことを。

肆、花に對する批評

狩野藤作

嚴冬に靄郁たる梅花又美を賞す可し惜哉其枝の小にして妙ならざるを是れ日本が強兵を誇るゝ雖も貧國を悲むに澎湃たり、山櫻は忽而咲忽散これ大和民族の國民性に恰當す桃は花を弄せず實を得るにあり之シンケルに相通ふ哉總ての花を雲烟視する事勿れ。

伍、新に入營する諸君の爲に

佐伯義久

入營は苦しきもの也さは會て蒼交相傳ふる口耳の片言耳入營により境遇の轉換は稍苦痛とせんも三五日にして感化せられて自ら閑日月あり要するに要領を擡むにあり

六、社會制裁

橋本正雄

宗教家は未來を説き教育に刑罰を説け國家には法律あり古は武士道を重じ狹客は意地の二字を生命とす、然れ共明治初年より大正に及びて個人主義益々流行す今や社會は自ら裁判所にして此等の不徳漢無道不忠實者をして被告たらしめ各個人は法官となり以て彼等を忠告なる積極的手段をとり或は排斥なる消極的方法によりて大に改良向上せしめざる可からず。

七、吾人の未來

于安頼義

現在に生きるは口にして未來に生きるには筆なりとの冒頭にて過去の階級度を論じて因襲的公卿武士の位置は源平の禍亂に依て上下倒顛す徳川時代には武士町人を區分す然るに明治維新と共に四民平等たり是により世は擧げて腕力の活闘智識の戰爭となる而も智識は今後各人の通有性となるものなれば吾人は品性の養成せざる可からず就中正々堂々たる關ヶ原式を發揮せよ。

八、醫業に就て

傳田昶

醫業を以て醫師の專業とする主義と必ずしも醫師の專業となきぬ主義が世界列國に行はれて居る其の根本を尋ねれば醫業は營業なりや否の問題にして而も之れが廣狹二意に解釋せらるゝが爲なり余輩は假令醫業は營業にあらず假令營業の目的を持って爲さるゝと雖も高尚なる學問的道德的業務也と信じて疑はざる所のものなり。

九、所感

大村作太郎

明治思想界は二宮翁崇拜に次でホケツト論語の愛讀となり近時日蓮主義に新しき流行語の勃興を見る吾人は宗教上日蓮を敬慕するに非ざれば彼の主義中に權利の壓制を忌みて同情の深念に富むば最も多とする所なり本會は交情を益々濃にして團體に屬する各會員の赤誠努力に待つと希望せられた。

拾、藥科に就て

上出正男

竹庵日記の一節を抜萃して舊の藥箱は「レットル」の繪畫を以て其の藥品應用を記したるものなり曰、灰は肺癆、風を揚るは風藥、能の面には腦病の如し吾人は日新の大步に伴ふと共に又一面古藥方も考察す可しと誦諭す。

拾壹、會計報告

池田謙壽

拾貳、時間の觀念

由來時間と數の觀念は東洋諸國は到底西洋文明の北にあらず我國に於ける「余輩」は單複數の何れに屬する哉さうぶ候さうぶに未來か現在か過去なる哉未來也而て時間の標準は時分秒を以てすれ共人生の意義は年月日の長短を以て定む可からず夫酣生夢死の百貳拾五歳を得んよりは寧ろ參拾にして終ることも充實せる生活を全するに然かず。

拾參、閉會之辭

豐岡喜藏
〔文責村山生〕

●第二學年級會誌

初夏の雨は銀線の如く靜かに新緑に灑ぐ五月二日。見殘せる春の夢香山、千歳の樓上に級會を開く。胸襟を披いて語り暮すに如何にふさはしき日ぞや。池邊の藤波漸く打ち出でんこし、小立野の高臺は雨に霞みて宛然墨繪に似たり。二時半開會。級長上田先生即ち立つて慈母の赤子に教ゆるが如く醇々として語る『私は久ぶりで級長となつたが直接諸君に接すること少なく諸君の爲めに十分に萬事を謀る事の出来なかつたのは實に遺憾とする所である。然し諸君の腦裏へ生理學の智識を築き得たのであるから、諸君との關係は決して淺くないのである。第二學年は學科多く教授も注入的となるは止むを得ないから諸君は讀書によつて實力を養生せられよ。其の第一歩として必要なのは外國語である諸君は勉強して語學に長ずる様になられたい。』との意を語られ。橘君次で全級を代表して上田先生の鴻恩を感

謝し、先生の希望に背かざる可きを誓ひ、我が級の和氣藹々として協同一致せる美風を益々發展せしめんことを望む。鶴見君は二學年生活の活動寫眞を映寫せり。福士先生立つて伯林の物語をせらる『伯林に居る日本の留學生は從來徒に費用多き生活をして居たが私等は Schalesstele なる組合を作つて普通學生の如き生活をして費用を節する事が出来た、經濟のために多く留學生は田舎に行くを好むが研究上便利が多いから伯林に居る方がよい。大學の各教室には多く留學生があつて皆各 Thema を以て Arbeit をやつて居るから實際よい Arbeit を受ける事は出ぬ、故に留學すればたい Arbeit の方々、著眼点等を研究し歸朝後眞に大なる Arbeit をするがよい。其他 Site の觀察は Kaffee, Theater, Restaurant 等に於てし外國の變る様を見るも面白い。』とて趣味溢るゝ先生の物語は多大の興味を湧かしぬ。狩野君は花に倫理的觀察を下し、水島宣君桃太郎の童話に面白き解釋を與へぬ。石原君次で Pomum Admni, Atlas, Labyrinthus, Caput noctuae. の語原なる神話を悟る。之より河北、井手、白石、高島四君の尺八合奏あり。加藤先生甫め立ち『留學するに先づ伯林に行きて二三ヶ月の後外國の事情が解つたら早速田舎に行くがよい。伯林は Templation が多く經濟上にも田舎の方がよい』とて前に福士先生が放たれたる諸識に對して面白き皮肉の矢を酬ひて與せらるゝに臍の轉位すること約十五糎。黄昏の色漸く濃く七箇の雲洞を點す。何等の雅趣ぞや。灯は金屏に榮へて温かき清調の更々新に流るゝを覺へたり。

興益々酣にして隱藝の指名となるや、傳田君高砂の後福士先生を名指し、先生が獨逸製の手品は加藤先生の「鴨ぼつば」に飛火し、次で上田先生が得意の謠曲となり。上池君の御文章、河越君の狂言、牧野君の輕業、平野君の混合節を初めとして追分、山中節、詩吟、甚句、ゲンコツ節、に至るまで百藝悉く集り殊に井手君の浪花節の如きは雲右衛門三舎を避く可し、指名して終に残るなき頃牛飯の珍珠出で來る。腹充つれば西田、松波兩君の

ヴァイオリン合奏あり、上田先生閉會を宣し第二學年級の萬歳を三呼せられ學生之れに和し。更に三先生の萬歳を唱三して此の一日を永遠に銘しつゝ散會せるは八時半なりき。(雁記)

通 信

●宮田教授通信

拜啓昨日ハルンに轉し左記に下宿致候、金子、森田、加藤、三君の會遊の地にて金澤には非常に縁故あるのみならず伯林より見れば恰も東京より金澤へでも來りたる如き心持致居り候、即ち第一に非常に閑靜にて人情質朴下宿料其他もズット安價に有之候、然し「グリニツク」は六月二日より行く筈なれば未だ如何なる工合か分り不申候、遙に會員諸君の御健康を禱り申候

五月二十九日

宮田教授宿所

Prof. Dr. T. Miyata

bei Dantz

Forstenstr. 10 / 1.

Halle a / S, Deutschland.

ハルンより

學 會

●今立西部研究会

福井縣今立郡醫師會。

(五月十五日)

「ブラーゼンモーン」の牆壁轉移

河 合 鷹 (三〇)

「エリトロメラギー」患者の症狀

大 橋 豐 (三一)

●長野縣醫學會

五月三十一日上田蠶糸學校にて開會。

遺傳と早發痲病との關係

小野澤庄桂 (三二)

叙 任 及 辭 令

●海軍省

舞鶴海軍港務部軍醫長海軍々醫少監

寺 本 義 一 (三〇)

免本職補舞鶴海軍病院附兼看護術練習所教官

吳海軍病院附兼看護術練習所教官海軍大軍醫

長 井 運 男 (三一)

免本職並兼職。海軍々醫學校甲種學生被仰付

●金澤醫學專門學校

五月二十八日

金澤醫學專門學校醫學士 芥川 信(大二)
履申付 月俸金貳拾圓給與
病理學副手ヲ命ス

六月一日

金澤醫學專門學校耳鼻咽喉科學副手囑託 住田 立(四)
依願囑託ヲ解ク

六月八日

金澤醫學專門學校醫學士 石川 寛二(大二)
耳鼻咽喉科學副手ヲ囑託ス
月手當金貳圓給與

●石川縣

金澤病院醫員ヲ命ズ
十二級俸給與
外科二部并ニ耳鼻咽喉科部勤務ヲ命ズ
越村甚次郎(大元)

人事

▲天野彦次氏(四二年度卒業) 去五月下旬來不快にて引籠中なりしが漸
次病勢重り去る六月二十三日逝去せらる謹で哀悼の意を表す
▲丸山直友氏(四二年度卒業) 卒業後母校病理學教室にて村上教授の下
に研究されし事二年後内科二部に佐々木教授の下に半ヶ年胃腸病學を研

究し後東京胃腸病院に勤務中なりしが六月二十日十一時神戸出帆宮崎丸
にて渡歐の途に就かる

▲山岸 岳氏(四二年度卒業) は大阪赤十字病院眼科を辭し郷里新潟
縣中頸城郡糸魚川町に開業せらる

▲小西眞清氏(四四年度卒業) 一年志願兵として軍隊に服務中なりしが
去月滿期除隊の上富山市神通町にて開業せらる

▲越村甚次郎氏(大元卒業) は同上金澤病院耳鼻咽喉科に勤務せらる

●轉居

福井縣足羽郡東郷村下東郷

青山 寛之(三九)

日本郵船會社神戸支店氣付鎌倉丸船醫

齋藤 祐男(四三)

福井縣鯖江町東小路三九

久保田 保治(三八)

●入會

新潟縣刈羽郡宮川町

久保田 宮太郎

石川縣金澤市高岡町

石崎 喜一郎

北海道天鹽國天鹽村

中元 長三郎



會 告

●自大正三年四月廿九日校外特別會員會費納付調書
至全 六月廿二日

金額	期 限	氏 名
金貳圓	自大正二年度 至大正三年度	武 田 正 壽殿
全	全	鈴木修一 耶殿
金壹圓	自大正二年度分	久保田 宮太 耶殿
全	全	石崎 喜一 耶殿
金七圓	自大正二年度 至大正八年度	馬 詰 定 衛殿
金壹圓	自大正二年度分	高 岡 榮殿
金參圓	自大正五年度 至大正七年度	草野 佐一 耶殿
金參圓	自大正二年度 至大正四年度	久 高 唯 忠殿
金五圓	自大正二年度 至大正五年度	喜 多 養 元殿
金壹圓	自大正二年度分	中 元 長 三 耶殿

●創立二十五年紀念館寄付金第二回報告

六月廿二日迄ノ分(○印アルモノハ現金領收簿ノモ)

一金五圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	花岡佐太郎殿	一金參圓也	齊藤金則殿
一金五圓也	氏 名	一金五圓也	氏 名	一金六圓也	鈴木於菟吉殿	一金參圓也	尾倉一英殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	關 根 平殿	一金參圓也	眞縮修平殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○加納景成殿	一金拾圓也	垣内昇殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○廣野誠一郎殿	一金拾圓也	篠尾明濟殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○竹 松 衛殿	一金拾圓也	中川幸庵殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○石川元良殿	一金五圓也	佐藤邦次耶殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○天野彦次殿	一金五圓也	○德木千秋殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○稻坂清八殿	一金參圓也	新谷成三耶殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○桑島柳吉殿	一金參圓也	英 軒 二殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	林 可 一殿	一金五圓也	蓮村外男殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	小島佐藏殿	一金參圓也	○古屋榮治殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	小野醇吉殿	一金參圓也	萩原 忠殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	宮本品太郎殿	一金五圓也	北川健三殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	田中基保殿	一金參圓也	○淺田耕造殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	酒井利勝殿	一金五圓也	山 本 晋殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○柳原茂樹殿	一金參圓也	○大野幸重殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	酒井政吉殿	一金參圓也	○奥山正雄殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	藤 浪 謙殿	一金參圓也	○高田茂一殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	鈴木仁吉殿	一金五圓也	橋本監次耶殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	河崎有作殿	一金拾圓也	河村多耶殿
一金參圓也	敷波重治耶殿	一金五圓也	建部鈴次耶殿	一金參圓也	○久高唯忠殿	一金五圓也	○土屋重俊殿

一金五圓也

○中村 庸殿

一金參圓也

森 茂殿

一金五圓五拾錢

○平田 一若殿

一金參圓也

富田 寬殿

一金五圓也

小出 貞次郎殿

一金參圓也

黒田 道純殿

一金五圓也

○原田 正廣殿

一金五圓也

吉江 乘太郎殿

一金參圓也

○白田 重良殿

一金五圓也

○後藤 義賢殿

一金五圓也

○村上 盛宰殿

一金五圓也

○本田 三郎殿

一金五圓也

○馬詰 定衛殿

一金五圓也

○高岡 榮殿

一金參圓也

○草野 佐一郎殿

一金五圓也

○熊澤 清隆殿

一金壹圓也

○中川 善松殿

一金拾圓也

○米村 吉太郎殿

一金拾圓也

○島 誠郁殿

一金五圓也

○上阪 政太郎殿

一金五圓也

○太田 精一殿

一金五圓也

○松山 爲雄殿

一金參圓也

○白井 丈吉殿

計金參百拾貳圓五拾錢也

累計金九百〇五圓五拾錢也

▲第一回申込報告後現金領收ノ分

金 額

氏 名

金 額

氏 名

一金拾圓也

小島 顯治殿

一金參圓也

久保田 宮太郎殿

一金五圓也

井上 只次殿

一金五圓也

牧 孝太郎殿

一金五圓也

松王 數男殿

一金參圓也

鈴木 正孝殿

一金五圓也

片岡 喜一郎殿

一金五圓也

望月 慶作殿

一金參圓也

熊西 中藏殿

計金四拾四圓也

廣 告

左記の方は居所不明に付御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候但し姓名の上に◎印あるは最近に不明ななりたる人々なり

舊 住 所

東京芝養生園

大阪市東區京橋三丁目

伊勢國阿藝郡河西村字木田八六

長野縣上水内郡長野町

富山縣魚津町

石川縣羽咋郡高濱河崎醫院内

石川縣能美郡小松町字京町

朝鮮京城旭町二丁目

軍 醫

豫備工兵第九大隊

兵庫縣神戸病院

門司市西川端町二丁目

獨乙國ミユンヘン市

高知縣高岡郡須崎古市町

近衛野砲兵聯隊

新潟縣中頸城郡新井町

園崎 純次郎 (三九)

森岡 惣太郎 (三五)

片岡 正 (三五)

須田 嘉三郎 (三六)

前田 豐作 (全)

小林 五佐 (全)

松村 四郎 (三毛)

富久 尾溪 (全)

宮崎 稻作 (全)

西村 順八 (三六)

本城 熊三郎 (全)

戸井 源吾 (全)

松久 祐馬 (全)

藤井 茂 (全)

木下 節三 (全)

鈴木 政治郎 (全)

兵庫縣柏原病院
 久留米衛戍病院附
 北海道小樽慈惠病院
 廣島縣高田郡吉田町
 福井縣立病院
 札幌北一條四丁目
 東京芝神谷町
 東京市神田區駿河臺井上眼科病院
 東京市芝區田村十九富田三十郎方
 篠山步兵第七十聯隊附軍醫
 伊豆國伊東町玖須美
 大阪市北區安治川南二丁目政山病院
 新潟縣長岡市長岡病院內
 朝鮮駐劄軍司令部附軍醫
 新潟縣長岡市長岡病院內
 大坂市北區絹笠町回生病院
 金澤市弓ノ町九
 富山縣石動町石動病院
 名古屋市園井町三丁目藤田方
 北海道釧路釧路港得濟病院

●宮田教授へ贈呈記念釀金受領報告

第三回 (締切迄)

金 額 氏 名 金 額 氏 名
 一金壹圓也 佐藤 邦次郎殿 一金壹圓也 佐 口 榮殿

吉武安男(全)
 内海友七(全)
 江 藤 幹(全)
 瀧澤武藏(四)
 五井康平(全)
 楠 正之(全)
 松本文二(全)
 河崎正雄(全)
 河 合 勝(全)
 吉田繁治郎(全)
 池谷運平(全)
 池川周次郎(全)
 藤井最正(四)
 鈴木琢磨(全)
 ◎長谷川 愛之亮(全)
 三上 儉次(四)
 荻野 鶴治(全)
 谷 口 明(全)
 ◎伊藤芳廣(大元)
 須藤卯太郎

一金壹圓也	齋藤義雄殿	一金壹圓也	田邊鼎介殿
一金壹圓也	說田順一殿	一金五拾錢也	山田外來雄殿
一金拾九圓拾五錢也		金澤醫學專門學校醫學科學生一同	
一金壹圓也	齋藤榮次郎殿	一金壹圓也	西 勝 人殿
一金壹圓也	高橋重次殿	一金壹圓也	高澤冠一殿
一金五拾錢也	尾崎平吉殿	一金五拾錢也	前田豐作殿
一金壹圓也	佐々木辰實殿	一金壹圓也	加藤 鐵作殿
一金壹圓也	松村喜一殿	一金壹圓也	國吉真才殿
一金五圓也	天野隆義殿	一金壹圓也	河合忠次殿
一金五拾錢也	吉村一馬殿	一金壹圓也	小野澤庄桂殿
一金五拾錢也	松尾陸一殿	一金壹圓也	小黑仁太郎殿
一金五拾錢也	藤岡孫喜殿	一金壹圓也	並河正雄殿
一金五拾錢也	石川精一殿	一金壹圓也	山内 兔毛殿
一金五拾錢也	那谷與一殿	一金壹圓也	猪木彦助殿
一金五拾錢也	喜多禎次殿	一金五拾錢也	玉森法靈殿
一金五拾錢也	宇野 正殿	一金壹圓也	松澤堅二殿
一金五拾錢也	白田重良殿	一金壹圓也	成田成治殿
一金五拾錢也	源明藤吉殿	一金五拾錢也	山崎重治殿
一金五拾錢也	牧田 泰殿	一金五拾錢也	小池才一殿
一金五拾錢也	伊藤又吉殿	一金五拾錢也	杉本兵太殿
一金五拾錢也	坂井貞準殿	一金五拾錢也	梶川 靜夫殿
一金五拾錢也	竹内善松殿	一金五拾錢也	近藤清吾殿
一金五拾錢也	上野辰太郎殿	一金五拾錢也	奥山義盛殿
一金貳圓也	沖野彌一郎殿	一金五拾錢也	富田豐咲殿
一金五拾錢也	松本乙男殿	一金壹圓也	内藤頼一殿
一金參圓也	草野佐一郎殿	一金五拾錢也	今井外吉殿

一金貳圓也	河崎有作殿	一金貳圓也	古屋榮治殿
一金壹圓也	岡久雄殿	一金五拾錢也	池上豐殿
一金壹圓也	朝倉重敏殿	一金壹圓也	山崎太一殿
一金壹圓也	松浦龜太郎殿	一金壹圓也	神岡藤二郎殿
一金參圓也	村山常三郎殿	一金壹圓也	伊藤精一殿
一金五拾錢也	佐々木茂樹殿	一金壹圓也	密山總民殿
一金五拾錢也	日下辰吉殿	一金五拾錢也	菊地文僖殿
一金五拾錢也	内藤三太郎殿	一金貳圓也	垣内昇殿
一金壹圓五拾錢也	山田有登殿	一金壹圓也	安藤傳次殿
一金五拾錢也	渡邊八進殿	一金壹圓也	松山金次郎殿
一金壹圓也	藤崎榮吉殿	一金五拾錢也	相馬甲五郎殿
一金壹圓也	建部鈴次郎殿	一金五拾錢也	天野彦次殿
一金五拾錢也	豐田銳殿	一金貳圓也	錢崇潤殿
一金壹圓也	岩佐兵藏殿	一金五拾錢也	川上操一殿
一金五拾錢也	原季殿	一金壹圓也	並河茂樹殿
一金五拾錢也	秋山八百藏殿	一金五拾錢也	仙波昌秋殿
一金五拾錢也	新次郎吉殿	一金壹圓也	月原秀範殿
一金五拾錢也	富田寛之殿	一金壹圓也	千田常外殿
一金壹圓也	荒川修藏殿	一金壹圓也	小幡一志殿
一金壹圓也	伊阪春殿	一金壹圓也	佐藤武殿
一金壹圓也	森義作殿	一金五拾錢也	鈴木俊定殿
一金壹圓也	田村圓四郎殿	一金壹圓也	久津木勝治殿
一金參圓也	濱鏡造殿	一金五拾錢也	田中三彌殿
一金貳圓也	韓清泉殿	一金壹圓也	濱地藤太郎殿
一金貳圓也	厲家福殿	一金貳圓也	荒川正雄殿
一金壹圓也	松下嘉右衛門殿	一金五拾錢也	中島義一殿

一金五拾錢也	加瀬順之助殿	一金五圓也	熊澤清隆殿
一金五拾錢也	岡村晋殿	一金五圓也	山田義忠殿
一金五拾錢也	吉川六郎殿	一金五圓也	伊藤喬殿
一金五拾錢也	齋藤金則殿	一金壹圓五拾錢也	馬詰定衛殿
一金壹圓也	鹿野重次郎殿	一金壹圓五拾錢也	住田立殿
一金壹圓也	砂川茂男殿	一金壹圓五拾錢也	小泉義久殿
一金五拾錢也	鶴來政雄殿	一金壹圓也	石川寛二殿
一金壹圓也	田中一次郎殿	一金五圓也	佐崎伊久殿
一金壹圓也	近藤時男殿	一金壹圓也	今村鏡夫殿
一金壹圓也	野坂賢藏殿	一金五拾錢也	小原隼三殿
合計金百五拾參圓拾五錢也			
總計貳百六拾七圓五拾五錢也			

▲第二回報告正誤

誤
計金五拾貳圓貳拾錢也
累計百參圓九拾錢也

正
計金六拾貳圓七拾錢也
累計百拾四圓四拾錢也

本校解剖學教室に助手の空位を生し候に付本校卒業諸氏にして同學研究希望の諸君は此際奮て金子博士の下へ至急御申出相成度候(月俸金參拾圓)